

布施 夢荻（ふせ・むてき）

1、プロフィール

大正8年7月、淡谷悠藏が中心となって創刊した「黎明」の発刊同人となり、「郷土文学」振興運動に参加した。

<生没>

1895(明治 28)年4月 25 日 ~ 1922(大正 11)年9月 21 日

<代表作>

『ふるさと』

<青森との関わり>

下北郡川内町生まれ。蛸崎小学校で代用教員を務め、後に青森市で薬種商を営む。

2、作家解説

本名は吉蔵で、明治 28 年に川内町で生まれ、明治 42 年3月に脇野沢尋常高等小学校を卒業する。同年4月に青森中学に入学するが、病気のため2年を修了して退学し、母校の蛸崎小学校の代用教員として奉職する。

大正3年4月、青森県立畜産学校獣医科に入学するが、またも病気のため2年を修了して退学する。

大正7年から佐野泡明らが青森市で創刊した雑誌「樹焰」に、夢荻の名で歌を発表し始め、大正8年、「黎明」の発刊同人となる。大正9年、青森市三上町に薬種商を開く。

大正 11 年、享年 27 歳で死去。青森メソジスト教会で葬儀を行い、栄町共同墓地に埋葬された。

3、資料紹介

○『ふるさと』

図書

1922(大正 11)年 11 月 20 日

158mm×112mm

「黎明」11月号特別号として発刊され、中扉に、布施夢荻遺稿「ふるさと」と記され春子夫人の歌2首が掲載されている。

「布施君を憶ふ」の章に、知友9人の歌18首が置かれ、夢荻の歌は大正7年から11年までの173首が収められている。